

①事業所名		TAKUMI堺				支援プログラム（参考様式）				②作成日		令和 7 年	2 月	21 日
③法人（事業所）理念		すべての人がキラキラと輝ける世界を創る 夢中で真っすぐに取り組んでいる姿は、“キラキラ”と輝いて見えます。 目標に向かって歩んでいる時、 苦手分野を克服しようとチャレンジしている時、 達成の喜びを仲間と分かち合う時、 たくさん楽しんでいる時。 私たちは、お客様や社員、私たちに関わるすべての方々、 一人ひとりが“キラキラ”と輝ける世界を創ります。 そして、その“キラキラ”の輪を世界に広がっていきます。												
④支援方針		運動療育を中心に支援を行っております。 運動を通じて、子どもたちは体力や筋力を向上させ、運動能力を発展させるだけでなく、社会性や認知能力も向上させることができます。 運動は児童の身体的健康だけでなく、精神的な健康にも良い影響を与え、ストレスの軽減や心の安定に役立ちます。チームワークや協力、リーダーシップなどの社会的スキルを学ぶこともできます。 児童発達支援の観点から見ると、身体的発達や運動能力の向上だけでなく、感覚統合や身体認知の発達にも大きな役割を果たします。 子どもたちは自己認識や身体の制御を向上させ、日常生活や学習における課題に対処する能力を身につけることができます。 また、運動は子どもたちの集中力や注意力を高め、学習意欲を刺激する効果もあります。 さらに、児童の行動や情緒面の発達にも良い影響を与えます。運動を通じて子どもたちはストレスを分散し、感情をコントロールする方法を学びます。 また、自己肯定感や自己効力感を高め、児童の自尊心や自信を育むのに役立ちます。												
⑤営業時間		平日	11 時	45 分	18 時	30 分	⑥送迎実施の有無	あり なし						
		土・日	9 時	30 分	16 時	15 分								
		支 援 内 容												
⑦本人支援	健康・生活	・持ち物の管理、道具や遊具の用意と片付けなど、環境の整備を自立的に行えるよう支援します。 ・意思表示が難しい子どもの障害の特性や発達の過程・特性を考慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、細やかな観察を行います。 ・さまざまな遊びを通して学習できるよう、安心して過ごせる場所を提供します。												
	運動・感覚	・柔軟性を高めるストレッチ運動や自重を使った筋力トレーニングを活動に取り入れ、健康な体づくりをサポートします。 ・触覚を刺激する遊びやトランポリン等を使った運動で、バランス感覚と空間認識を養います。 ・サーキットトレーニングを通じて、心肺機能の向上を図ります。 ・音楽に合わせたダンスやリズム遊びで、リズム感と協応性を育み、楽しく体を動かします。 ・ボールを使った運動を主に行い、手と目の協応を高めます。 ・体ほぐし運動・多様な動きを作る運動・マット・跳び箱・鉄棒・縄跳びに関するプログラムを実施しております。												
	認知・行動	・ソーシャルスキルトレーニング（SST）や役割遊びを通じて、友達とのコミュニケーションや協力の仕方を学びます。 ・望ましい行動を促し、安心できる環境を提供します。 ・感情の認識とコントロール、タイムマネジメントを伝え、自己調整能力を高めます。 ・問題解決のステップを伝え、話し合いを通じて解決方法を学びます。 ・スモールステップで小さな目標を設定し、達成感を味わうことで自信をつけます。												
	言語コミュニケーション	・自分のしたいことを伝えたり、手伝ってほしい時に援助を求めるなど、生活の中で他者との関わりで必要な行動やスキルを、適切な場面で発揮できるよう支援します。 ・お子さんの特徴やニーズに応じて、絵カードや文字を使ったコミュニケーション手段を活用します。 ・集団遊びの中で、「入れて」「貸して」と言って相手の返事待つスキル、「いいよ」と応じるスキル、「今使ってるよ」「あとでね」と断るスキルを、友達とのやり取りの中でスムーズに行えるよう、支援員が見本を見せたり助言したりします。 ・集団や小グループでの活動を通して、他者との関わりを学ぶ機会を作ります。 ・親子参加型の活動：定期的に実施している親子プログラムの機会等を活用し、家庭でも継続して行えるようサポートします。												
	人間関係 社会性	・運動・遊びを通じて、友達とのやり取りを楽しみながら、チームワークと協調性を育みます。 ・友達との関わり方に関して、支援員が見本を見せたり、助言したりして、肯定的な関わりが増えるよう支援します。 ・集団遊びの時間を通して、順番に行う、ルールを守る、友達と協力する、失敗や負けを受け入れるなど、他者と一緒に生活していくために必要なスキルを身につける機会を提供します。 ・グループでの話し合いの時間を設け、コミュニケーションのスキルを養い、他者の気持ちを理解する力を育みます。 ・成功体験の共有や日常的に他者を褒める習慣を通じて、自己肯定感を高め、互いの成長を喜び合う機会を提供します。												
⑧家族支援		・児童の発達に関する相談・助言など ・支援内容に関する相談・助言など ・家庭生活・集団生活・きょうだい児に関する相談・助言など ・制度に関する相談・助言などを実施します。				⑨移行支援		・園や学校への訪問や受け入れの際に行った会議を通じて、児童の心身の状況や生活環境などの情報連携を実施します。 ・必要に応じて、学校でのお子さんの様子を見学したり、学校の先生とお子さんの様子や支援方針について、情報共有したりします。 ・園や学校、家庭などで事業所内と同様の行動ができるよう目指した支援を行います。 ↳練習した場面でないところでも適切な行動ができるよう支援します。 ↳練習と違った指示でも適切な行動を引き出せるよう支援します。 ↳強化子がなくても適切な行動をしつけられるよう支援します。						
⑩地域支援・地域連携		・関係する放デイや児童発達支援事業所、相談支援事業所などと、情報共有するなどして連携を図り、密な連携を取っていきます。 ・保育所・学校・医療機関等との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談などを行って参ります。 ・通所支援連絡会などへの参加を行って参ります。				⑪職員の質の向上		・新入社員研修（座学、運動補助研修、対応ロールプレイ研修） ・既存向け研修（座学、運動補助研修、対応ロールプレイ研修） ・リーダー研修（座学、運動補助研修、対応ロールプレイ研修） ・運動プログラム研修（座学、運動補助研修、対応ロールプレイ研修） ・児発管研修（座学、対応ロールプレイ研修） ・全社員研修（座学、対応ロールプレイ研修） ・外部研修（座学、対応ロールプレイ研修）						
⑫主な行事等		・運動に関するイベント ・創作に関するイベント ・季節に関するイベント ・保護者向けに関するイベント												